

国立障害者リハビリテーションセンターの今後のあり方に関する検討会 報告書の概要

- 近年の国立障害者リハビリテーションセンター(国リハ)を取り巻く状況の変化を踏まえ、国リハの今日的役割や次期中期目標策定に向けた事業運営の見直し等を行うため、有識者を含めた検討会を開催し、主に以下の論点を整理した報告書を取りまとめた。

1 国リハの今日的役割と方向性

(1) 人口構造の変化への対応

- ・少子高齢化問題に対して打ち出された「あらゆる場で、誰もが活躍できる、いわば全員参加型の一億総活躍社会を実現」や「障害者等が、希望や能力、障害や疾病の特性等に応じて最大限活躍できる環境を整備するため、就職支援及び職場定着支援、治療と職業生活の両立支援等を推進」等の方針に貢献することが必要。
- ・障害者における健康増進、健康(機能)寿命の延伸についても寄与すべき。

(2) 法・制度改正への対応

- ・「障害者の権利に関する条約」の理念等を踏まえ、障害を負って間もない障害者や、情報から遠ざけられている障害者に対し、サービスの提供や情報支援を通じて、社会参加を促し、共生社会の実現を目指していく必要がある。

(3) 科学技術の活用

- ・障害者の自立や生活を支援するための機器について、障害者による利用促進のための技術開発、人材育成、障害者の技術へのアクセス支援を行っていく必要がある。

(4) 情報ネットワークの形成と情報収集・発信による地域の均てん化

- ・情報ネットワークの形成と、先進的な取組の紹介、情報交換、及び国リハにおけるモデル開発とその情報発信による地域の均てん化を図るべき。
- ・諸国の先進的リハビリテーションの国内への紹介、取組の推進を行うべき。

(5) 国際社会に対する情報発信

- ・超高齢社会先進国の中で、障害者リハビリテーションの中核的な役割を果たしてきた国リハの取組について、技術移転とともに国際社会に向けて情報発信すべき。

2 国リハの今後持つべき機能

- 障害者に関する保健・医療・福祉サービスの提供、研究開発、人材育成等の機能を一元的に備え持つ国リハの特性を発揮し、課題を共有して一体的に取り組むことが必要。

(以下、主な取り組むべき内容を記載)

(1) リハビリテーション医療の提供

- ・時代の要請に応えた先導的なリハビリテーションプログラムの開発やモデル事業的サービス、研究開発を行う。
- ・病院→自立訓練→就労支援→自立生活というリハビリテーションパスを病院と自立支援局が連携して推進する。

(2) 障害福祉サービスの提供

- ・重度障害者や取り組みの遅れている障害等、取組拠点や地域関係機関との連携を構築し、就労支援を推進する。
- ・社会や障害者等のニーズに基づく支援体制を検討し、研究所とのさらなる連携等により情報発信する。
- ・秩父学園においては、知的障害も含めた発達障害を主な対象とし、療育の経験と成果を蓄積し情報発信する。
- ・秩父学園においては、実地研修の受け入れや指導者の派遣を通じて支援者や他事業所の人材養成を行う。

(3) 支援技術・支援機器・支援システムの研究開発

- ・障害者の自立支援に資する研究及び国の施策に資する研究を推進する。
- ・現場や時代の要請に応じた研究テーマの設定、ICT・ロボット開発技術の活用等による障害者の生活や自立を支援する技術の研究及び機器の開発支援等を進める。

(4) リハビリテーションに関する専門職の人材育成

- ・高度専門職業人、教育者、研究者等専門職の指導者育成を目的とした教育のあり方について新たに検討する。

(5) 障害者の健康増進推進、運動医科学支援

- ・国内状況に応じた、ニーズとリソース(健康増進の機会提供)のマッチングシステムの構築と運用を行う。

(6) リハビリテーションに関する情報収集及び提供

- ・各情報・支援センター(室)の充実、拡充を図り、情報交換、発信による地域の均てん化を図る。
- ・諸国の先進的リハビリテーションを国内へ紹介し、同時に国リハの取組を国際社会に情報発信する。

(7) 効率的かつ効果的な事業運営

- ・引き続き、PDCAサイクルによる事業の着実な実施、見直しに取り組んでいく。

(8) リハビリテーションに関する国際協力

- ・WHO指定研究協力センターとしての活動等国際機関への協力や日中韓のリハビリテーションセンター間の連携・協力等の国際協力の活動を今後も推進する。

(9) 情報セキュリティ対策

- ・情報セキュリティの確保について職員の認識を高めるとともに、厚生労働省本省との連携を密にしながらセキュリティ対策を推進する。

国立障害者リハビリテーションセンターの今後のあり方に関する検討会

○趣旨

国リハが設置されて40年が経過しようとしているところ、近年の国リハを取り巻く状況の変化を踏まえ、今後国リハに求められる役割や重点的に実施すべき事業等の検討を行う。

○構成員名簿（敬称略）

（国リハ）

・飛松 好子	総長
・森 浩一	自立支援局長
・西牧 謙吾	病院長
・阿久根 徹	副院長
・緒方 徹	障害者健康増進・運動医科学支援センター長
・小野 栄一	研究所長
・深津 玲子	学院長
・吉田 正則	管理部長
・伊沢 功次	企画・情報部長
・山田 英樹	企画統括官

（厚生労働省）

・橋本 泰宏	社会・援護局障害保健福祉部長
・内山 博之	社会・援護局障害保健福祉部企画課長
・遠藤 征也	社会・援護局障害保健福祉部企画課施設管理室長

（学識経験者または関係行政機関）

・奥山 眞紀子	国立成育医療研究センターこころの診療部長
・鎌田 実	東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻教授
・芳賀 信彦	東京大学大学院医学系研究科リハビリテーション医学教授
・南 砂	読売新聞東京本社常務取締役調査研究本部長
・吉永 勝訓	千葉県千葉リハビリテーションセンター長

○開催状況（全4回開催）

第1回 平成30年8月7日 第2回 平成30年10月5日 第3回 平成30年11月7日 第4回 平成30年12月19日

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 秩父学園の今後のあり方に関する検討会

○趣旨

近年の国リハを取り巻く状況の変化を踏まえ、今後の国リハに求められる役割や重点的に実施すべき事業等の検討を目的として、「国立障害者リハビリテーションセンターの今後のあり方に関する検討会」が設置された。これに伴い、秩父学園は自立支援局の他施設と対象者や事業内容が異なるため、秩父学園に求められる役割や重点的的事业等の検討会を別途設置し、「国立障害者リハビリテーションセンターの今後のあり方に関する検討会」における検討に資するための検討を行う。

○構成員名簿（敬称略）

（国リハ）

- | | |
|---------|------------|
| ・飛松 好子 | 総長 |
| ・森 浩一 | 自立支援局長 |
| ・西牧 謙吾 | 病院長 |
| ・川鍋 慎一 | 秩父学園園長 |
| ・齋藤 奈津子 | 秩父学園療育支援課長 |
| ・山田 英樹 | 企画統括官 |

（厚生労働省）

- | | |
|--------|------------------------|
| ・遠藤 征也 | 社会・援護局障害保健福祉部企画課施設管理室長 |
|--------|------------------------|

（学識経験者）

- | | |
|-------|------------------------|
| ・早川 洋 | 社会福祉法人慈徳院嵐山学園園長、児童精神科医 |
| ・大塚 晃 | 上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授 |

○開催状況（全2回開催）

第1回 平成30年9月25日 第2回 平成30年10月23日